



顔で笑って、心を笑わせるごろのぼるんだもん。

暑

かったですなあ。今年の夏は。連日、三〇度超えが続き、三八度なんていう日もありません。

「熱中症予防にはためらわずに冷房をつけてください」なんていうことを、テレビでは絶えず呼びかけてます。年取ると、暑いかどうか、鈍感になるそうです。年配の方が、熱中症になるのも、そういうことが原因の一つとか。お互い気をつけんとね。

この暑さで、関西では、最近使わなくなった、電力ピークという言葉が、久しぶりに話題になってました。

NHKのニュース（七月一八日電子版）から引用します。

「関西電力によりますと、一八日、関西地方を中心に猛暑となつていて影響で冷房用の電力需要が増え、ピークとなる午後四時からの一時間は、関西電力管内の供給力に対し、需要が占める割合、いわゆる『使用率』が九八%まで上昇する見込みとなりました。

このため、関西電力は、電力の需給が非常に厳しくなつたとして、東京電力や中部電力などから最大一〇〇万千瓦ワットの電力の融通を受けました。（中略）電力会社が別の会社から融通を受けたのは、この夏、初めてです……」。

こんなニュース、ここ数年、聞いたことなかったのやありませんか。

少しずつ景気が回復してきたとは言え、省エネも徹底して電力の需要は、それほど伸びてなかったと思います。

ちなみに関西電力は、七月一日に電気料金を値下げしてます。福井県にある原子力発電所、大飯3号と4号が動いたからです。電力の値下げは、去年に続いて二度目です。

僕が標準語しゃべろう思うたらしゃべれます

さて、そんな暑い中、僕はゴルフに行ってきました。そしてなんとベストスコアを出したんです。すごいですやろ。

「炎天下何してるんですか。それやなくとも熱中症で亡くなつたり、重症になる人が多いのに。『あの人工衛星まいど1号を上げた青木豊彦さんが、炎天下に昇天!』なんて、シャレにもなりません」と、いつもの東京のおっちゃん、けしからんことを言いました。

実際、聞いた話ですが、ゴルフやってて手足がピクピクして痛いなあ、痺れたなあ、と思いマッサージした人がいました。

さいわい、なんともなかったらしいですけど、これ熱中症の



●(株)アオキ取締役会長
青木 豊彦 (あおき・とよひこ)



1945年大阪府生まれ。1997年(株)アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。また東大阪の技術力を生かし、人工衛星「まいど1号」を開発、2009年に打ち上げ成功。その後無人垂直飛行機「AKITU」も開発に成功した。2014年4月、国立和歌山大学客員教授に就任。2016年には大阪市立大学学長特別顧問に就任。現在は(一財)ものづくり医療コンソーシアムの理事としても活躍中。

始めの症状らしいです。

そうそう、読者の方から、よくでてくる東京のおっちゃん、東京のおっちゃんなのに、なぜ関西弁らしきものを使うのか、というお問い合わせがあったそうです。

このおっちゃん、今は東京に住んでますが、元々、東京生まれでもなく育ちでもありません。出身は西の方ですけど、かといって純粋な関西出身でもありません。そやけど僕と話す分には、関西弁らしい言葉で話すが、一番楽やと言っています。

関西弁は伝染しやすい言いますが、そうなんですかなあ。僕らから見れば、生まれも育ちも東京の人は、標準語しかしゃべれないから、逆にかわいそうに思いますけどね。

例えば、僕が、標準語をしゃべろう思うたら、しゃべれます。なんか、おっちゃんが「ほんまですか」というような怪訝な顔しています。

失礼な！ なにを考えてんだよ。君は！
ほら、ちゃんとしゃべれますやんか(笑い)。

**面白いこと言ったら
自分も人も明るくなります**

そうそう炎天下のゴルフの話でした。

なんで、わざわざこの暑い中ゴルフかといいますが、プレーに打ち込むことで気をまぎらわしたかったんです。

実際、一見、僕はいつも元気で、面白いことばかり言ってるように、思われますけど、実は、人並みに悩んだり、考えたりしています。

(撮影：氏野光子)



●暑さしのぎに公園の噴水を浴びる人も

いろんなこと、やればやるほど、ぶつかりますねえ。現実には、

こうやればええと思っても、無理やと跳ね返されたり、信頼してた人が煮え切らない態度を取ったり……。そんなとき、好きなゴルフで気をまぎらわします。

コース回りながら、友だちとばか話して。グチは言いません。誰やって、たまになら聞いてくれるかもしれないが、人のグチ聞くのは疲れるもんです。グチばかり言っていると人は離れていきます。

苦しくても、面白いこと言ったら、自分も明るくなり、人も明るくなります。前から言うてるように、人のために尽くすのは、まず、周りを明るくしてみんなを支えることからです。顔で笑って心で泣いて、という言葉があります。そやなくて、顔で笑って、心を笑わせるというのはどうですか。

「女心と秋の空」という例えもあります。女性ばかりやなく、心なんて実にはええかげんなものですから。ころっと変わりますよ。